



平成29年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年11月10日

上場会社名 AppBank株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6177 URL http://www.appbank.co.jp/
 代表者(役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 宮下 泰明
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員管理部長 (氏名) 野村 友総 (TEL) 03-6302-0561
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期第3四半期の連結業績(平成29年1月1日～平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第3四半期	1,361	△23.2	△243	—	△247	—	△323	—
28年12月期第3四半期	1,772	△40.4	△34	—	△69	—	△34	—

(注) 包括利益 29年12月期第3四半期 △323百万円(—%) 28年12月期第3四半期 △34百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第3四半期	△48.42	—
28年12月期第3四半期	△5.24	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年12月期第3四半期	1,576	753	47.7
28年12月期	2,203	1,062	48.2

(参考) 自己資本 29年12月期第3四半期 751百万円 28年12月期 1,060百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年12月期	—	0.00	—	—	—
29年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年12月期の連結業績予想(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	1,800	△22.8	△290	—	△310	—	△410	△61.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 — 社 (社名) 、除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	29年12月期3Q	6,798,000株	28年12月期	6,798,000株
② 期末自己株式数	29年12月期3Q	89,043株	28年12月期	146,643株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	29年12月期3Q	6,682,818株	28年12月期3Q	6,599,211株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

当社は、決算説明資料については、速やかに当社ホームページに掲載する予定であります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取りまく経営環境におきまして、当社メディア事業の主たる事業内容であるインターネット広告市場は、スマートフォン広告を中心に拡大基調が継続しております(注1)。ストア事業の主たる商材に影響のあるスマートフォン端末につきましても、買い替え期間の長期化傾向は見られるものの中高年層の所有率向上(注2)などにより出荷台数は増加しております(注3)。一方でスマートフォンアクセサリー販売の市場環境は、市場の成熟化に伴う製品のコモディティ化とともに、流通チャネルの多様化による競争激化の状況が継続しております。

このような環境の下、上期の業績低迷を受け、当社は本年8月に通期業績予想の修正を公表いたしました。当事業年度を構造改革の年と位置づけ、本社移転を含む経費削減、メディア事業の業績回復、ストア事業における不採算店舗閉鎖などの施策を通じ企業体質の強化に努めております。当第3四半期連結会計期間においては、メディア事業は増収に転じたものの減益となり、ストア事業は店舗閉鎖に伴う経費の削減効果が出つつあるものの、事業全体の黒字化には至っていないなど、両セグメントともに改革途上にあります。

経費面につきましては、役員報酬を含む人件費など販売管理費の削減に努めましたが、売上総利益の減少分を補うには至りませんでした。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高1,361,787千円(前年同期比23.2%減)、営業損失243,559千円(前年同期は営業損失34,542千円)、経常損失247,755千円(前年同期は経常損失69,882千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失323,586千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失34,592千円)となりました。

(注1) 出所：経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」(2017年8月確報版)

(注2) 出所：博報堂DYメディアパートナーズメディア環境研究所「メディア定点調査2017」

(注3) 出所：一般社団法人電子情報技術産業協会統計資料

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部取引高を含んでおります。

(メディア事業)

当社主要サイトである「AppBank.net」、「パズドラ究極攻略」、「モンスター攻略」は合計で月平均1億8,700万ページビューを超える多くの閲覧者を有しております。これに加えて、8月にはネットマールジャパン株式会社公認「リネレボ公式攻略」のWebサイトとアプリをリリースいたしました。社外YouTuberとのコラボ動画を契機にダウンロード数が増加したスマートフォンゲームアプリ「麻雀ツモツモ」では、「Tポイント」との連携を開始いたしました。また電子書籍・オリジナルマンガの情報につきましては、「Denesy-デネシー-」を通じて配信しております。

動画配信の分野では、「YouTube」においてゲーム実況、ロケ動画、情報・商品紹介など様々なコンテンツを公開しております。人気チャンネルのひとつ「マックスむらい」チャンネルは、登録者数が150万人を超えました。企画動画のメインチャンネルと併行してゲーム実況等を配信している「マックスむらい2」チャンネルともども多数のご視聴をいただいております。「麻雀コロシウム」などのコンテンツで好評を博している「niconico」では、「パズドラやろうぜ!〜湯けむり出張版〜」を静岡県沼津市のホテル沼津キャッスルにおいて公開生放送を行いました。また、ゴルフに特化した新感覚メディア「ringolf」は、チャンネル登録者数が25,000人を超えるとともにリアルイベントを開催するなど順調に推移しております。

営業面では、純広告収入が微増となったものの、広告プラットフォーム事業につきましては、当社を取り巻く運用型広告市場が伸び悩んだこと等により大幅な減収となりました。また、アプリ事業は増収となった一方、動画事業は伸び悩みました。新事業「マーケティング支援」は、堅調に推移しております。メディア事業合計で当第3四半期連結会計期間においては増収となったものの、上期の減収分を補うには至りませんでした。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は659,617千円(前年同期比6.9%減)、セグメント損失は178,029千円(前年同期はセグメント損失39,879千円)の減収減益となりました。

(ストア事業)

スマートフォンアクセサリ販売事業は、需要の一巡に伴い、市場が飽和状況にあることに加えて、キャリアショップをはじめとする専門店以外の様々なチャネルでの取り扱い拡大など、競争激化の傾向は継続しております。競合他社との差別化を図るため、当社メディアとの連動強化、先行販売、「Amazon Pay」での支払い対応などの施策とともに、モバイル保険やiPhone修理事業などスマホユーザーのライフスタイルをより豊かにするサービスの提供に努めました。

店舗事業では、事業採算性改善のため、「ららぽーと新三郷店」、「ららぽーと立川立飛店」、「池袋PARCO店」を7月に、「イオンモール四條畷」、「イオンモール堺鉄砲町」を9月に閉店いたしました。5月閉店の「イオンモール与野店」を含めた当第3四半期連結累計期間の閉店数は6店舗となり、9月末現在の「AppBank Store」常設店舗数は7店舗、期間限定店舗は2店舗となっております。iPhone修理店「Sma-cle」につきましては、常設店4店舗にインショップ展開の2店舗を加えた6店舗でサービスを提供しております。

営業面では、Eコマースサイト売上が低調に推移したことに加えて店舗数減少により減収となりました。9月にはスマートフォン端末の新機種が発売されましたが、影響は限定的なものにとどまりました。販売費及び一般管理費を削減したものの減収に伴う売上総利益のマイナス分を補うまでには至りませんでした。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は728,218千円（前年同期比33.3%減）、セグメント損失は75,798千円（前年同期はセグメント損失8,622千円）の減収減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,576,391千円となり、前連結会計年度末に比べ626,820千円減少いたしました。これは主に、「現金及び預金」が442,120千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は823,061千円となり、前連結会計年度末に比べ317,603千円減少いたしました。これは主に、「1年以内返済予定の長期借入金」が96,886千円減少、「長期借入金」が141,384千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は753,330千円となり、前連結会計年度末に比べ309,216千円減少いたしました。これは主に、「親会社株主に帰属する四半期純損失」を323,586千円計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成29年8月10日に公表いたしました通期連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,464,745	1,022,624
売掛金	218,127	159,395
商品	79,225	82,785
原材料及び貯蔵品	2,355	4,583
未収還付法人税等	134,497	4,132
その他	58,960	35,113
流動資産合計	1,957,911	1,308,634
固定資産		
有形固定資産	65,300	34,227
無形固定資産	3,054	30,724
投資その他の資産		
投資有価証券	80,112	130,224
長期未収入金	148,691	148,691
その他	96,832	72,581
貸倒引当金	△148,691	△148,691
投資その他の資産合計	176,945	202,805
固定資産合計	245,300	267,757
資産合計	2,203,212	1,576,391
負債の部		
流動負債		
買掛金	123,711	90,771
1年内返済予定の長期借入金	301,910	205,024
資産除去債務	—	21,000
未払法人税等	1,489	3,117
その他	155,381	106,681
流動負債合計	582,492	426,595
固定負債		
長期借入金	528,951	387,567
資産除去債務	29,221	7,032
その他	—	1,866
固定負債合計	558,172	396,466
負債合計	1,140,664	823,061
純資産の部		
株主資本		
資本金	99,850	99,850
資本剰余金	300,576	312,721
利益剰余金	666,230	342,644
自己株式	△5,753	△3,493
株主資本合計	1,060,903	751,723
新株予約権	1,643	1,607
純資産合計	1,062,547	753,330
負債純資産合計	2,203,212	1,576,391

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
売上高	1,772,860	1,361,787
売上原価	1,078,240	923,065
売上総利益	694,620	438,721
販売費及び一般管理費	729,162	682,280
営業損失(△)	△34,542	△243,559
営業外収益		
受取利息	166	246
受取配当金	4	4
為替差益	1,686	—
役員報酬返納額	2,220	—
還付加算金	—	1,398
雑収入	1,035	404
営業外収益合計	5,112	2,052
営業外費用		
支払利息	7,501	5,279
過年度決算訂正関連費用	32,249	—
雑損失	702	968
営業外費用合計	40,452	6,248
経常損失(△)	△69,882	△247,755
特別利益		
新株予約権戻入益	127	30
固定資産売却益	—	166
特別利益合計	127	197
特別損失		
賃貸借契約解約損	—	23,796
減損損失	19,179	33,321
固定資産除却損	956	—
特別損失合計	20,135	57,118
税金等調整前四半期純損失(△)	△89,890	△304,675
法人税、住民税及び事業税	2,046	3,210
過年度法人税等	△18,738	—
法人税等調整額	△38,605	15,699
法人税等合計	△55,297	18,910
四半期純損失(△)	△34,592	△323,586
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△34,592	△323,586

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
四半期純損失(△)	△34,592	△323,586
四半期包括利益	△34,592	△323,586
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△34,592	△323,586
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準摘要指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年1月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	メディア事業	ストア事業			
売上高					
外部顧客への売上高	700,649	1,072,210	1,772,860	—	1,772,860
セグメント間の内部売上 高又は振替高	7,537	19,795	27,332	△27,332	—
計	708,187	1,092,006	1,800,193	△27,332	1,772,860
セグメント損失(△)	△39,879	△8,622	△48,502	13,960	△34,542

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額13,960千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ストア事業」において、移転に伴い閉店が決定した店舗の固定資産について減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては19,179千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	メディア事業	ストア事業			
売上高					
外部顧客への売上高	656,756	705,030	1,361,787	—	1,361,787
セグメント間の内部売上 高又は振替高	2,860	23,187	26,048	△26,048	—
計	659,617	728,218	1,387,835	△26,048	1,361,787
セグメント損失(△)	△178,029	△75,798	△253,828	10,269	△243,559

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額10,269千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「メディア事業」において、本社移転を決定したことに伴い、本社資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては16,554千円であります。

また、「ストア事業」において、閉店が決定した店舗の固定資産について減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては16,767千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。